



第11回 症例検討会

青天の下、平成29年11月12日（日）午後1時より、すこやかプラザ2階セミナーホールにおいて、第11回症例検討会が開催された。

医師、歯科医師、看護師、歯科衛生士、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、栄養士や介護施設職員等約110人が参加し、小宮山理事の司会により進行された。

埼玉県摂食・嚥下研究会だより

vol.36

発行日
平成30年1月10日
発行者
埼玉県摂食・嚥下研究会
事務局
埼玉県浦和区針ヶ谷4-2-65
彩の国すこやかプラザ5F
埼玉県歯科医師会内
TEL 048-829-2323

事例発表

「口腔機能維持と食えることへのリハビリ実施の症例報告」 外来通院において摂食・嚥下にかかわるアプローチ、他

講師 埼玉県歯科衛生士会会長 大久保 喜恵子氏



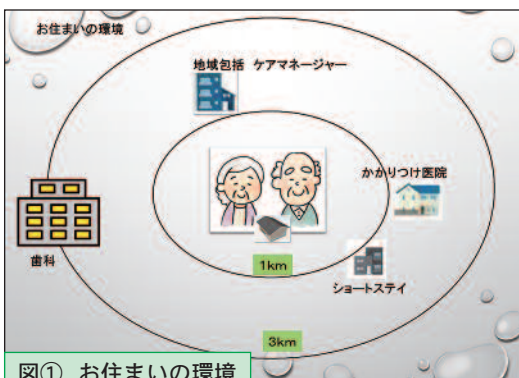
《今回のアプローチ目的》

外来において自力歩行通院の患者さんが、進行性の疾病に罹患し症状の進行に伴い、食事の摂取がしにくくなり誤嚥の症状も強く、体重の減少もあり主治医から胃瘻造設や経管注入による栄養補給を説明されたが、受け入れることができずに来院。ご家族やご本人は医療的な延命処置は希望しないで自宅で生活を共に送りたいと願っていた。

何とか口から好きなものを食べさせたいと切望。ご本人の認知度は比較的保たれていたが、質問等には直ぐ言葉が出ず、答え始めるまで時間がかかる状態。流涎のためマスクを常時使用中。コップで口をゆすぐことは可能。来院時の様子は主に奥様からの主訴が多い。このため口腔機能の低下予防を目的とした口腔機能維持体操を計画して毎日実施できるようにした。機能の回復を確認しながら現在食べている食材の工夫や飲み込みについて指導。ご家族の協力のもと、毎日できる時間や場所等も確認した。

《対象及び方法》

▽性別／男、▽年齢／1934



図① お住まいの環境

年生まれ82歳。
▽病名／進行性核上麻痺、既往症腎結石（1991年手術済）、状態 嚥下の低下による誤嚥症状あり、食事拒否有り、ご家族は妻・娘と居住。座位は可能であるが日中も横になることが多い。
▽介護保険は要介護度1、デイサービスは週2回利用（午前中のみ利用、昼食有り、入浴なし）
▽かかりつけ及び住まいの環境は図①を参照。

まず、嚥下評価を実施した。RSSSTはむせてしまい実施不能、発語確認できない（無気力、無関心）。咬合状態は不良、舌や咀嚼筋運動群の低下がみられた。月1回の通院が可能なこと、口腔の健康維持と食事を摂る訓練を計画、横になっている状態での足首・膝・頭の挙上やつま先の体操などを組み込んだ口腔機能体操。椅子や座位においての体幹の

咀嚼から嚥下への確認のためのレントゲン撮影の説明をしたが拒否された。治療のような処置は望まないと拒否された。家庭でできることを望んでいた。ご本人の口腔内は衛生状態が思わしくなく、上の歯は局部床の義歯があり（図②）開口度は二横指、発語はほとんどなく流涎が多い（常時マスク使用）。舌は口腔内で左右に動く。



図② 口腔内の状態



図③ 咀嚼運動、ガム咬み検査他



図④ かき水とおかゆの状態

保持運動や顎の引付けや呼吸訓練などをわかりやすく記載した訓練表をご家族にお渡しして、日中、毎日繰り返しできるようにした。来院時に評価の繰り返しと口腔機能の確認をしながら口腔機能の低下予防や直接的訓練に努めた。月1回の受診は屋外へ出ることが少なくなり、外出のきつかけとして生活の中に取り入れることができたようになった。毎月の来院で少しずつ口の動きもよくなり、口腔機能の中でも口唇の閉鎖時間が長くなり、咬み合わせも強くなり、成果が見えてきた時もあった。また、咀嚼力の変化等もあった。(図③)

「食べることにへのアプローチとしては、口腔内の覚醒にアイスマッサージ法を利用した。食材に「かき水」を利用して、冷感を刺激することで、咽頭部分への刺激を繰り返して、低下していた味覚や臭覚においても効果を期待した。食事の前に必ず冷感といちこの香りを確認していただいた。一口量は、口腔の温度で直ぐ溶けてしまいうらい(ティスプーン1/4から)開始し、むせない適量を決めた。冷たいと感じることで、口唇を閉じ舌が口蓋につき「ごっくん」した。ご家族の皆様が「好きなものを食べさせてあげたい」と願いが強かったため、好きな食材を伺い食べやすい形や食感を調整した。最初の一口はかき水↓おかゆ(図④)全粥とろみの間位のもの)の繰り返しでむせ状態を見ながら嚥下確認をした。

ご家族にもしつかりと量を守っていたいただき、お好きなうなぎやシラス、青菜などをおかゆに入れて食べるように進めた。数か月後には親指大の軟飯おにぎりも2〜3個食べるようになった。

《結果及び考察》
 体重がアプローチ2月後に1kg、4月後1kg増加すると、大変に喜ばれた。口腔機能は維持経口を保ちRSSTにおいては声の音も大きく保っていた。口腔体操や月1回の外来受診も生活のリズムとなり、6月間は誤嚥による発熱や体調を崩すことなく自宅での生活を送っていた。その後、体調は進行傾向にありこの間に介護保険の見直しがあり要介護度1↓5になった。

《結論》
 外来通院にて嚥下の訓練をすることはご家族の力が大きく必要で、またご家族の関わりを信じて次の来院を待つこと、口腔機能体操などを確認する機会も少ないために介護支援専門員の方から情報を聞き取ることである。延命処置より尊厳的な生活を送ることを選択していたため、ご家族の病状に対する進具合や将来の不安等もささえることも必要だった。また、この症例は地域ケア会議が開催されれば生活の中に関われる専門職の方々の工夫が活かされ、連携して支えていくことが出来る症例であると必要性を感じた。

《報告後は》
 研修室1・2・3にて他の業者と共に咀嚼・嚥下低下の口腔内や咽頭部分の覚醒訓練に使用した「かき水」、また最初の一口として、自家製の「おかゆ」(全粥とろみ食の間位)を準備して試食を体験していただいた。アイスマッサージからの一口(一口量はプースで体験)ごっくんの自然嚥下確認を感じていただいた。
 最後に、このたびの症例発表を埼玉県摂食・嚥下研究会においてを他職種の方々にお伝えできる機会を与えて下さった、埼玉県歯科医師会の先生方および関係者の皆様に感謝申し上げます。

嚥下食の種類と目的
 コーディネーター 埼玉県栄養士会会長 平野 孝則氏



「摂食嚥下分類と市販介護食品について」と題して講演された。本邦においては、米国のNational Dysphagia Diet (2002) のような統一基準や統一名称がないことが摂食・嚥下障害者および関係者の不利益となつている。そのため、食事の分類やとろみの分類について、日本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013を基準とする事が提案された。今回の試食に用意された商品と本摂食嚥下リハビリテーション学会嚥下調整食分類2013との関係について示したものが図⑤である。

(1) 講義
 ヘルシーネットワーク株式会社 特取営業課専任福田浩人課長が、
 続いて、ニュートリイ株式会社 管理栄養士中野登美子氏が、「ゲル化剤を活用した嚥下食」と題して基礎的なところから講演され



図⑤ 嚥下調整食分類2013と試食品との関係

た。介護食とは、「適度な硬さ」・「まとまりやすさ」・「べたつき」の少なさを示され、介護現場の要望に配慮して、メーカー商品に頼らない「おうちで出来る介護食」などの動画も紹介され参加者の関心を集めた。また実践例として、とろみ剤の基本的な混ぜ方である「往復混ぜ」を行うことによりダマになりにくいことや、ミキサーにかけたお粥は餅状になってしまい嚥下食としては不適切であるため、酵素を使いゼリー状に形態変化させるなど、食品メーカーならではの研究成果を知ることが出来た。

次に各嚥下食品メーカーによる商品説明が行われ、各メーカー独自のアイデアが商品に反映されていることや、開発までの苦労も聞くことが出来た。



試食 キューピー



試食 キッセイ



試食 クリニコ



試食 ヘルシーネットワーク



試食会の様子

各試食
コーナー
紹介



試食 ニュートリー



試食 フードケア



試食 県歯科衛生士会

各試食コーナーでの試食・物性等の体験

参加者は研修室1, 2へ移動して、各試食コーナーでの試食・物性等の体験として、①ヘルシーネットワーク、②クリニコ、③キッセイ、④フードケア、⑤ニュートリー、⑥キューピーの6社の商品を40分間、試食した。また、埼玉

県歯科衛生士会会長の大久保氏は、自ら煮たおかゆとかき氷を持参され、アイスマッサージからのおかゆ嚥下体験を提供された。各ブースでは温かいものは温かく試食でき、とろみが付いたノンアルコールビールには参加者の列



グループワーク会場の様子

が出来たほどであった。参加者は直接担当者に熱心に質問し、名刺交換を行うなど、たいへん盛況であった。

グループワーク

試食会ののち、同じ地域で顔の見える他職種連携が構築されるよう、参加者には県央地区、県南地区、県東地区、県西地区、県北地区の計9グループに分散していただき、試食や商品に関しての意見や感想などをテーマに活発な意見交換が行われた。

最後に平野会長の軽妙洒落なリードのもと、各グループから発表がおこなわれた。職種間で試食の視点が異なることなどが再認識されるなど、今回の症例検討会は有意義なものとなった。

埼玉県摂食・嚥下研究会会員数 276名・32団体 (2017.7.16現在) ホームページ <http://www.ssek.net/>

唾液のチカラで健康と笑顔を
お口をやさしくケア ペプチサル・シリーズ

Pepti-sal (ペプチサル)とは「Peptide(ペプチド)」+「Saliva(唾液)」の造語。

唾液のチカラに着目して開発された低刺激性のオーラルケア製品です。
デリケートなお口をやさしくケアし、お口の環境を健康に保ちます。
要介護の方の口腔ケアにもおすすめです。

Pepti-Sal MouthGel

Pepti-Sal Mouthwash

Pepti-Sal Toothpaste

2種類のペプチド配合

ラクトフェリン配合

キシリトール配合

保湿成分配合

pH 中性域

発泡洗浄剤無配合

アルコール無配合

パラベン無配合

*1 ナイシン・ポリリン (清掃助剤)
*2 (清掃助剤)
*3 (甘味剤)

T&K ティーアンドケー株式会社

TEL: 03-5640-0233

FAX: 03-5640-0232

0120-555-350

www.comfort-tk.co.jp

第28回 講演会

日時：平成30年 **2月18日** (日) 14:00~17:00

場所：彩の国すこやかプラザ 2F セミナーホール

講演 I

演題：「(仮)地域における障害児・者への摂食支援」

講師①：埼玉県社会福祉事業団 嵐山郷医療部医幹 **内田 淳 先生**

講師②：明海大学 歯学部 機能保存回復学講座
摂食嚥下リハビリテーション分野 准教授 **大岡 貴史 先生**

講演 II

演題：「(仮)発達障害のお子さんの摂食の問題について」

講師：埼玉県言語聴覚士会会長 **田尻 恵美子 先生**

■定員：200名

※参加者多数の場合はご連絡いたします。

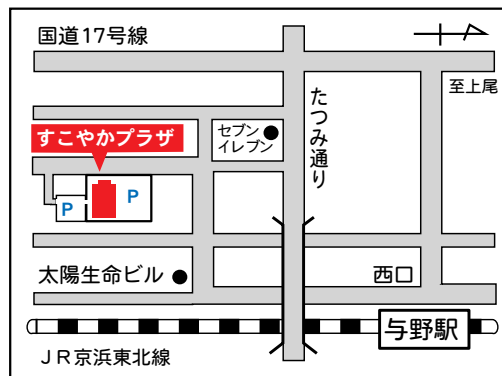
※改めて参加証はお送りいたしません。

■参加費：会 員 / 無 料
参加費 / 2,000円

■申込締切日：**2月9日(金)**

主 催：埼玉県摂食・嚥下研究会

問合せ：埼玉県歯科医師会事務局 TEL 048-829-2323



参加申込書

埼玉県摂食・嚥下研究会 (会員・非会員)

※どちらかに○を付けてください

フリガナ		職 種	
氏 名		電 話	
住 所 (勤務先)	〒 -	F A X	

申込書 FAX先 **048-829-2376**